



No Borders, One Earth

multibook 受注残の把握



はじめに

現状、受注伝票レベルで、未出荷、一部出荷済、出荷済、取消のステータスが把握できるのみで、一部出荷済の場合、どの品目がいくつ未出荷なのか、詳細の数量把握（=受注残管理）ができません。

今回、これを改善し、どの品目がいくつ未出荷なのか（受注残）、把握可能とします。

1. 実現概要

【実現ポイント】

- 現在保有している受注伝票レベルでのステータス管理機能は、そのまま維持（＝ステータスとしては、あくまで、伝票レベル）し、別途、受注伝票番号、品目毎の受注残（＝未出荷残）の把握を実現します。
- 受注残把握は、受注伝票番号、品目毎とし、納期は含めませんので、納期が異なる明細は、受注伝票をわけて登録する前提とします。
- 会社マスターに、受注残管理区分を追加し、受注残管理を利用する会社は、受注残管理区分を設定（0:管理しない 1:管理する & 出荷済数量受注数量オーバーチェックはしない 2:管理する & 出荷済数量受注数量オーバーチェックもする）します。
- 受注残管理にあたり、受注残テーブルを追加します。
 - キー：会社、受注伝票番号、品目
 - 項目：受注数量、出荷済数量
- 受注残テーブルへの移行のため、受注残テーブル一括更新（エクセルアップロード）機能を用意しますので、受注伝票照会より、未出荷、一部出荷の伝票をダウンロードし、加工のうえ、受注残テーブルに移行して下さい。

2. 各機能での変更点

【 SLSO110 受注伝票登録、 SLSO140 受注伝票Excel Upload 】

- 伝票登録時、受注残テーブルに受注残管理レコードを追加します。

【 SLSO120 受注伝票修正 】

- すでに出荷がある伝票（いずれかの品目の出荷済数量 >0 ）について、ステータス：取消への変更不可とします。
- 出荷済数量より少ない数量への更新不可（品目毎にチェック）とします。
- 更新時、品目毎の受注数量再算出、受注残テーブルの受注数量を更新（受注数量0となった品目のレコードは削除します）します。

【 SLMM110 入在庫伝票登録、 SLMM150 入在庫伝票Excel Upload】

（受注伝票番号指定時のみ）

- 受注ステータスは、マニュアルで更新して頂きます（一部出荷済の場合）。
- 受注残管理区分が2の場合、出荷済数量（出荷済数量+画面入力値） $>$ 受注数量の場合はエラー（品目毎）とします（100個受注だが、おまけで110個出荷のケースを許可する場合、1を設定して下さい）。
- 登録時、品目毎の出荷済数量を算出、受注残テーブルの出荷済数量を更新します（データが存在しない場合は更新しません：未移行）。
- 会社マスターで受注残管理をオンにした場合、売上出荷時、受注伝票番号必須。

2. 各機能での変更点

【 SLMM130入出庫伝票取消 】

- 出庫伝票の各品目の出荷数量を、受注残テーブルの出荷済数量よりマイナスします（データが存在しない場合は更新しません：未移行）。

【 SLSO130 受注伝票照会 】

- “受注残検索”ボタンを追加します。検索条件は同じですが、表示される項目は、受注伝票ヘッダ項目、品目、受注数量、出荷済数量、納期（当該品目が設定されている明細：同じ品目が複数明細に設定されている場合、最も直近の納期）とします。

【 SLSO150 受注残テーブル一括更新】

- 受注残数量の移行をエクセルアップロードで実現します（ダウンロードも可能、アップロード時無ければインサート、あれば出荷済数量の更新とする、受注数量は、会社、受注伝票、品目をキーに、自動取得&更新する、出荷済数量は入力された値で更新）。

【 MACM110 会社】

- 受注残管理区分（0:管理しない 1:管理する&出荷済数量受注数量オーバーチェックはしない 2:管理する&出荷済数量受注数量オーバーチェックもする）を追加します。